

[メルディア]

一般財団法人メルディア広報誌

# MELDIA



働く 障がい者と共に

創る 障がい者と共に

布施博による取材 布施博が訊く／特別編

劇団「てあとるみのり」×布施博

スポーツと障がい

E's CAFE／エスペランサNEXT

書家・金澤翔子

天才書家の誕生と母娘の物語

人気連載エッセイ 障がいのある息子と私

水越けいこの「M size／はじまり」

月刊メルディア  
VOL.11  
TAKE FREE

MELDIA

2018  
NOV. VOL.11

月刊メルディア 11月号 2018年9月25日発行 (毎月1回25日発行) 第11号 通巻11号  
発行所／一般財団法人メルディア事務局 〒163-0632 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル32F

TAKE FREE



Design Your Life

MELDIA  
GROUP

同じ家は、つukらない。



メルディアグループ

<http://www.meldiagroup.com/>

株式会社三栄建築設計  
〒163-0632  
東京都新宿区西新宿1-25-1  
新宿センタービル32F

25th  
ANNIVERSARY

まだ25年、  
これからのメルディア

どんな個性も  
演劇においては  
プラスになる  
やがて自信に繋がり  
人間的な成長の助けに

「好きなことを皆で一緒にやろう」というテーマで活動をしている「ハートランドみのり」。

地域活動支援センターIII型のこの施設では、利用者が趣味や特技を活かした各種の活動をしており、中でも特に活発なのが演劇なのだという。

「てあとるみのり」という劇団名で活動する彼らの演劇は周囲からの評判も上々のよう。

施設長であり「てあとるみのり」の総監督でもある梶田佳生さんと、劇団員の皆さんに、現役の俳優である布施博が訊いた。



稽古風景

劇団「てあとるみのり」にて

社会福祉法人 豊芯会  
地域活動支援センターⅢ型  
ハートランドみのり  
劇団「てあとるみのり」



本気で打ち込んだからこそ  
得られる感動や喜びがある

布施 こちらの施設では皆さんで演劇をやられていると伺いましたが、どうして演劇をやるようになったんですか？

榎田 実は、私が大学まで演劇をやっていたんですけど、出来れば将来は布施さんと同じ「俳優」になれればなあと思っていました。でも、なかなかうまく行かず一旦夢を諦めていたんです。そこから色々あって福祉の仕事をする事になり、何か自分の経験や知識を生かせないかなと考えていて。演劇を自分でやっていて面白かったなというのが根底に

演劇によって個性を生かして  
前向きに生きる。パワーへ昇華

榎田 演劇をやる前と、やった後で、劇的にガラッと変わった訳ではないのですが、「またやりたい」という声は多かったですね。「楽しかった」というのと、「大変で辞めたいと思ったけれど、実際舞台に立ってみたらまたちょっとやってみたくなった」とか、「次はもう少ししっかりとやってみてみたい」と言ってくれて。

布施 それは良かったです。  
榎田 劇団員も自分ももっと頑張れば、もっと評価されるんじゃないかと、もっと感動を味わえるんじゃないか、という様な事を言ってくれたのでまたやるのか、どんな役がいいか、と

あったし、演劇をやることでの良い面や得るものが多かったんで、それを障がいのある方と一緒にシエア出来たらいいんじゃないかということでも演劇を始めました。

布施 なるほど。演劇ってものは障がいのある方にとっては大変な活動ではないですか？

榎田 そうですね。台詞も覚えなきゃいけないですし、稽古もなかなか大変です。それに障がいのあるなしに関わらず、今まで演劇をやったことがない人と一緒にやるという状況でしたから、演劇や稽古において守らなくてはいけない規則や決まり事を皆で共有して、なんとか皆の気持ちや萎えないように努力しました。とにかく、公演を一回やれば（自分もそうだったから）分かってもらえる、お客さんと向き合ってる感動を得られるまで、なんとか皆のモチベーションを維持していくという作業です。

布施 いや、大変なんですよ。役者相手でも、皆が勝手な事ばかり言ってる大変なんだから（笑）。そういう意味ではやはり、普通にただ好きなことをやるというより、色々な意味でパワーを使うんだろうなあ。

榎田 はい。でも大変だからこそ、やり遂げた時の達成感がありますね。公演をやるという事でお客様に来ていただいて、終演後に拍手をして貰えたり、「すごく良かったよ」と声をかけて下さったりするんですね。そういった、他人か

いうような感じで次もやる事になりました。

布施 脚本は榎田さんが書くの？

榎田 そうです。私が皆の特徴や希望を聞いて、それにアテて脚本に起こして演じてもらっています。障がいのある方って、個性的な方が多いので、その個性が生かされるような役を用意して、それが物語の中で生きるようにしているんです。そうすることで、今まで社会に出る上では妨げになっていた特徴や、ネガティブに思っていたことが逆転したんですね。すごく前向きに捉えられるようになってきたので、その辺りから皆のやる気がアップして頑張ってくれるようになってきました。

布施 やっぱ押し付けじゃなく、「好きな事を自分で選択してやる」という事が良いんだろうなあ。これまでの取材の中でもそれは感じたので、着眼点を演劇に向けたっていうのは新しい発想でなかなか面白いと思う。

榎田 ありがとうございます。でも、現在悩みどころもあって、この劇団「てあとるみのり」は結成して10年経つのですが、その10年で皆が

Actor vs General manager



ら拍手をされたり、褒められる経験って、恐らく障がいのある方が今まで生きてくる中で、多くはなかったんじゃないのかなと思うんです。ですから、本気でやってみて、「本当にすごいな」と思わせたら、ストレートに「良かった」という反応が返ってくる。そういう所に喜びややりがいを感じて貰えると思います。

布施 演劇を観た人が感じると思う（舞台の）距離感とライブ感、それに終演した時に拍手を贈られたら、そりゃ嬉しいもんですよ。芝居の何が好きって、やっぱりそこだよな。

榎田 そこが芝居の醍醐味ですよ。私もそれで芝居にハマりました。

布施 そういった意味でも、障がいのある方にとって演劇はとて素晴らしい影響を与えているかもしれないよね。

演者としても成長してきたので、新しく入る方の中には「自分は今まで出来ない」と、圧倒されてしまう方もいるらしいです。演技は凄いなだけけど、差があり過ぎて「自分には無理だ」と思ってしまう方が多いようなんです。「10年掛かってここまで来たけれど出発点は皆同じなんですよ」と説明するのですが、実態を見てもうと難しく感じてしまうよう。新しい方にも入ってもらいたいのですが、人数が伸び悩んでいるんですよ。

布施 言葉で言っても、なかなか理解してもらえないかもしれないけど、逆にそういうベテランの中に入って、「出来ません」から始めるのが一番手っ取り早いと思うけどねえ。

榎田 そうなんですよ。

今年度から体験版のような短い演劇をスタートさせたのですが、そうしたら新しい方も「これだったらやってみたい」と言っていただけのようにになりました。

布施 これからどんどん新しいメンバーが増えるといいよね。頑張ってください。

Hiroshi Fuse



俳優 布施博

一般財団法人メルディア

# MELDIA

おかげさまで「一般財団法人メルディア」は設立1周年を迎えることができました。当財団では、障がいのある方を支援する活動と、スポーツ(サッカー等)を行う児童・青少年を支援する活動を通じ、広く社会と人々に貢献するため、これらの事業を行っています。

## 02 広報誌の発行

障がいのある方と、そのご家族への情報発信を行うため、フリーペーパーの広報誌「月刊メルディア」を毎月発行しています。毎月2万部強を発行し、現在は首都圏や中京エリアのイオングループとその系列店、イトーヨーカドーグループとその系列店、特別支援学校、障がい者支援施設等に配布しています。



## 04 サッカー支援

才能があっても家庭の経済的な事情などで、プロプレイヤーを目指すことをあきらめざるを得ない青少年たちの夢を応援し、支援するための「奨学制度」を設けています。2018年9月現在、選考会を経て選ばれた3名の若者に対する支援を行っています。



## 01 事業内容

- ① 障がい者及び障がい者を支援する団体等への助成および支援事業
- ② 様々な理由からスポーツ(サッカー等)を続けることができない児童、青少年に対する助成および支援事業
- ③ その他の事業



## 03 取材活動

広報誌「月刊メルディア」では、障がい者支援事業所、障がい者雇用を推進している企業、スポーツ施設、各種団体、障がいのあるアーティストなどに取材をさせていただき、それらを掲載しています。取材記を当財団のFacebookページにでも紹介していますので、是非そちらも併せてご覧ください。



## 05 サッカー観戦チケットプレゼント

Jリーグ「湘南ベルマーレ(J1)」のホームゲーム観戦チケットを抽選で2名1組(ペア)にプレゼントしています。療育手帳または精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と介添者の方、2名1組(ペア)で試合を観戦できます。「湘南ベルマーレ」ホームゲームの観戦チケットをご希望の方は巻末の「チケットプレゼント」のページに記載の要項をご覧のうえ、ご応募ください。



## ALL ABOUT MELDIA

メルディアとは、「メダル」を意味する英語の「MEDAL(メダル)」とイタリア語の「MEDAGLIA(メダリア)」を合わせた造語となっており、終の棲家を手に入れる喜びを「栄光に輝くメダルを手に入れるような喜び」に見立てています。誰しも人生は一度しかないものです。

その、一度限りの人生の夢の実現を、メルディアグループの住宅をお求めになるお客様と同じように、障がいのある方、経済的に恵まれない方、多様性のある多くの人たちの人生においても、「夢」を実現していただくための一助となれることを目標に、これからも当財団の社会貢献事業を進めて参ります。

### ■ 財団概要

名称 一般財団法人メルディア  
(英文名: General Foundational Juridical Person MELDIA)  
設立者 小池信三  
設立日 2017年5月23日

所在地 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F  
電話 03-5381-3213  
URL <https://meldia.org/>  
MAIL [org@gf-meldia.com](mailto:org@gf-meldia.com)

MELDIA <https://meldia.org/>



facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



本格的な稽古の様子と、劇団員たちの真剣な眼差しを見るにつけ、演劇という活動は人を成長させる「糧」となるのは間違いないと再確認できた。(布施博)

第20回公演/2018年10月18日(木)~21日(日)  
北池袋 新館シアターにて  
※詳細はホームページで確認してください

## 演劇によって生まれる責任感 人間として成長できる場所に

——「てあとるみのり」の劇団員の方たちにも話を聞いてみた——  
布施 演劇の活動をしていてどんな事が良かったですか?  
川口 私の生きがいとなりました!

一同 (笑)  
川口 中学生の頃に少し演劇をやったけど、とても出来なくて辞めてしまっ。でも、今こうしてまたやっている事がとても嬉しいんです。本当にここに来て良かったと思っています。

田中 スーパースターになったような気持ちになるんですよ。僕は元々お笑い芸人を目指していたけれど、今は演劇の方が楽しいです。

村上 私は喜怒哀楽が激しいタイプだったんですが、演劇を通じて色々な感情を出していくうちに、自分の感情もコントロール出来るようになってきたんです。演劇をやったからこそ、もっと怒りっぽくてワガママだったりしたのかなあとも思います。

岩崎 以前は社会に出て働いていたけれど、休みがちでした。でも、演劇で一人ひとり配役されて自分の役割が明確になる事で責任感みたいなものが生まれました。自分のすべき事が分かるのがとても楽しいです。



社会福祉法人 豊心会  
地域活動支援センターⅢ型 ハートランドみのり  
豊島区南大塚 3-30-2 今井ビル 1階  
TEL / 03-5928-1920 FAX / 03-5928-1925  
<http://housinkai.or.jp/guide/tabid/72/Default.aspx>



取材・布施博

布施 楽しんでやる事は本当に大事ですよ。村上 ここでは総監督が全員を一人個人として扱ってくれるんです。今までは障がい者だという事で気を遣われたり、あまり怒られる事もなかったんです。でも総監督はそうじゃなく、ダメな事はしっかりダメと叱ってくれて、劇団員として、一人の人間として、きちんと私たちに向き合ってくれました。そのお陰で今こうして成長できたと感じます。

劇団員の皆さんのいきいきとした姿から、その充実さが見て取れた。正直なところ、演劇は大変な事も多いが、何より楽しいのだ。楽しみながら演劇活動をする事で、生きる活力や自信にも繋がっているのだなと感じた。



綺麗な店内ではスポーツ中継を見ながらコーヒーや食事、お酒を楽しむ。

# E's CAFE.

## もともとは障がい者のサッカーチームとして発足

**編集** こちらは日本初の障がい者就労で運営されているスポーツバーということで、とても興味深く思っています。どういう経緯でスポーツバーを経営されるようになったのでしょうか。

**神** このバー自体はオープンして約一年半です。オープンに至るまでには様々な経緯がありまして、そこからご説明させて頂きます。

**編集** 是非、お願いします。

**神** こちらのE's CAFEという店名の「E」は「エスペランサ」の頭文字で、このエスペランサというのはもともと02年に私たちが立ち上げて結成された、脳性麻痺の人たちが行うC Pサッカーというサッカー競技のチーム名なんです。それでサッカーチームとしての活動を続けていたんですが、その中で障がい者とスポー



E's CAFE  
東京都多摩市

ツを巡る環境の課題などにその都度出くわしました。そこで、こういった課題に対してアプローチして解決していきたいということで、12年にNPO法人の「C Pサッカー&ライフエスペランサ」を立ち上げました。

**編集** その活動の延長線上としてこのカフェが出来たということですか？

**神** おおまかに言うとそういうことになります。サッカーチームでしかなかった時には、普通にチームとしてサッカーが上手になっていきたいということでも活動をしていきましたが、今度は法人を通じて社会参加していくことを目標に活動方針を立てて運営することにしたんです。

**編集** それはなぜですか？

**神** 一つには、働きながらスポーツを続けていくためには金銭面での裏付けが必要になります。また、競技として考えた場合、時間的な拘束の問題もあります。これをなんとかしないことに

は彼らが十分に安心してスポーツを続けられませんが、彼らが安心して働ける場所を作る必要があったんですね。そこで、15年に一般社団法人の「PASCエスペランサ」を立ち上げました。この一般社団法人がカフェを運営する形になっています。

**編集** 概要を見せて頂きましたが、就労継続支援施設A型の括りになっていますね。

**神** その通りです。「スポーツと遊び」、「飲食」、「仕事」の3つの事業を柱に、障がい者スポーツの普及振興と障がい児の社会生活支援、障がい者就労を目的として活動しています。

**編集** スポーツチームとしての活動から、それに付帯する事業へと活動の幅を広げていったというわけですね。

**神** はい。「最終目標は自分たちのサッカー場を持つということ」と、最初から夢は大きく持っていたんです。でも、そうすぐに実現できるわけはありませんよね。自分でも現実に考えたらと、一歩引いているところがなかったわけではありません。でも、オランダに遠征に行ったときに、普段は寮みたいな施設に住みながら、やはりカフェで働き、仕事が終わったらサッカーの練習に打ち込んでいる障がい者に出会って、そこでは地域で障がい者がスポーツに取り組める環境が出来上がっていることを知りました。これをモデルに日本でも同じことをやりたいと考えている中、「これは今までにない取り組みに

## 日本初の障がい者就労で運営するスポーツバー スポーツと飲食を通じた共生が 図られている現場を取材



東京・多摩の私鉄駅から歩いて10分弱、そこにそびえる大型商業ビルの最上階には、民間業者が運営するフットサルコートがあり、そのすぐ隣にはおしゃれなカフェが入っている。そしてこのカフェは、障がい者の就労継続支援事業として生まれ、当然、そこには障がいのある人がスタッフとして働いている。日本初のユニークな取り組みということで、カフェを運営する一般社団法人の理事・神一世子さんに、その設立経緯から事業の目的までを聞いた。



一般社団法人 パラ SC エスペランサ

代表理事 **神 一世子**  
Iyoko Jin



店で提供しているメニューの一部。種類も豊富で、ワンプレートで食べやすそうです。



E's CAFE  
東京都多摩市落合1-47 ニューシティ多摩センタービル8階  
営業時間 / 11:00~22:00 (L.O.21:30) / 貸切・不定休有  
TEL / 042-311-2022  
<http://www.es-cafe.net/>



なるのでは」と考えて、日本財団さんに相談をしに伺いました。そこで、日本財団さんが全国で推進している「はたらくNIPPON計画」のモデル事業として認められて、助成して頂けるということで、カフェのオープンに漕ぎ着けることができたわけです。

**編集** やはり、一朝一夕には出来ませんよね。例えば、最初のCPサッカーチームの立ち上げも簡単ではなかったのでは？

**神** 私の夫も障がい者スポーツに関わっているんですが、ある日、夫が読んでいたある障がい者のスポーツマガジンを見たら、日本には無い障がい者スポーツ一覧が掲載されていて、そこにCPサッカーが挙げられているのを発見したんです。それなら日本で作ってみよう、と思ったのがきっかけです。でも、日本にはまだ無いわけですから。最初は4~5人くらいのメンバーが集まって、でも対戦相手だっているわけがありませんから、練習のための練習をしているような状態でした。それが今ではかなり広がって競技人口も増え、競技団体もあって、大会が開けるまでに普及してきました。

**編集** 今、エスペランサでは何名くらいのメンバーがいるんですか？

**神** だいたい60名くらいです。小学校低学年と高学年、中学生、高校生、成人の5つのカテゴリーに分かれていて、それぞれのカテゴリーで12名前後のメンバーが所属しています。

**編集** 運営面での工夫などありますか？

**神** 飲食店ですので、お客さまに満足して頂くことを第一として私たちもスタッフも、そこに注力しています。お客さまが喜んでくださることが何より大切ですから。

**開店から約1年半が経過し 様々な展開が行える時期に**

**編集** もともとスポーツチームだったわけですから、福祉事業を始められて何か戸惑うことなどはありましたか？

**神** 障がい者がそれぞれなら、人もそれぞれですから、「彼らにどういった特徴があるのか」、「どうコミュニケーションを取るべきか」と、最初は戸惑うこともありましたが、でも、それはどの世界のコミュニケーションでも同じですから。アプローチとしては変わらないはずですよ。

**編集** メニューを見ても、工夫された食べ物があつたり、店内の雰囲気もおしゃれでとても感じが良いですね。

**神** メニューに関しては紆余曲折がありながらも、現在はリニューアルに向けたメニュー構成になっています。最初は、外部の業者さんに依頼してメニューを作ってもらったんですが、その中には作りやすいものもあれば、そうでないものもありました。みんなで相談し合いながら

メニューを選定していきました。店内に関しては、私が参考にしたオランダの例におけるように、海外のサッカースタジアムではプロ・アマのスタジアムを問わず、サッカー場には必ずカフェが併設されていて、サッカーをする人・しない人の別なく、誰もが集まれるスペースを設けるといふ文化があるんです。それを私は作りたかったので、たくさんの方が集まりやすい空間を意識しています。

**編集** このお店でもすぐ隣がフットサルコートになっていますね。スポーツがあつて人が集まる空間がある。神さんがやるうとしていたことが、このお店の在り方を見てイメージできました。本日はありがとうございました。



店の奥にはコートを模したテーブルが。サッカー観戦しながら展開予想や、作戦を考えつつお酒も良いかもしれません。

**編集** 狭い地域からだけでは、人がなかなか集まらないでしょうから、そういった面でも苦労されているんじゃないですか？

**神** そうですね。うちのチームだと東京、神奈川、千葉と、メンバーの住所が跨っています。2時間かけてくるメンバーもいて、朝早い時なんて大変なはずなんですけど、それでも休むことなく通ってくれています。

**編集** 活動においては、障がいの種類も関わって来るんでしょうか？

**神** CPサッカー自体が、脳性麻痺の人がやるスポーツなので、最初は身体障がい者がメインの対象の活動をしていて、知的障がいなどほかの障がいのある人からの問い合わせもあつたんです。



様々な障がいのある人たちが働く、ユニークな取り組みを行うスポーツバー。

ですが、断っていたんです。ですが、活動を広げていく中で障がいの種類ごとに制限をする必要もなくなりましたので、今では身体、精神、知的など、様々な障がいのある人を対象にしています。このカフェのスタッフも様々な障がいのある人に働いてもらっています。

**編集** カフェに関して言えば、就労継続支援施設A型ということですが、経営的な部分はいかがですか？

**神** 開店して約1年半が経ちますが、模索する毎日だったかもしれません。例えば、この入居させて頂いている商業ビルは日に3千人くらいの利用者がいるんです。また、多くの企業のオフィスが入っているんです。そういう方たち向けにランチ用のお弁当を提供したりとか。構想は浮かぶんですが、これまでのスタッフの陣容だと実現できませんでした。仕事とのマッチングもあるので、簡単にスタッフを増やすわけにも



サッカーを中心としたスポーツを行う「放課後デイサービス」。大会出場を目指した練習だが、彼らはみんなとサッカー出来るのが楽しいようだ。

### 放課後等デイサービスでも サッカーを通じた活動を展開

本誌の直前ページで紹介した「E's CAFE」は、記事内でも触れたように、「一般社団法人パラSCエスペランサ」の事業の1つとして運営されている。さらにそれを遡ると、法人名の中にある「エスペランサ」とは、障がい者のサッカー競技の1つであるCPサッカーチーム名で、このサッカーチームを基にして、様々な社会活動を行う「NPO法人CPサッカー&ライフ・エスペランサ」が生まれ、さらに、障がい者スポーツの普及振興、障がい児の社会生活支援、障がい者就労を目的とした一般社団法人が作られたという経緯がある。

そう書くと、ちょっと話はややこしくなってしまうが、要は、元々は障がい者のサッカーチームが活動を続けていく中、様々な現実的課題にぶち当たり、その課題をクリアするために新たな組織を立ち上げ、活動の幅を広げてきたということだ。その中で、エスペランサではサッカーを中心としたスポーツを通じた障がい者支援活動を続けている。

もちろん、大本となったCPサッカーチームの活動も続けられていて、これは現在はNPO法人が運営する形になっている。

「CPサッカー」とは、最近よく注目されているブライインドサッカー（視覚障がい者サッカー）やアンブレティサッカー（切断障がい者サッカー）といった、7種類ある障がい者サッカー競技の中の1つで、脳性麻痺の障がいのある人たちが行うサッカー競技で、軽度の肢体不自由児・者もプレーする7人制のサッカーだ。より正確には、脳性麻痺のほか、脳血管疾患（脳梗塞、脳出血など）、脳外傷、脳炎などの後遺症で体や手足を自由に動かせない運動障がいのある人をその対象とする。

エスペランサでは、6〜10歳を対象とした「セドナキッズ」、10〜13歳を対象の「セドナ」、13〜18歳を対象の「エスペランサユース」の各カテゴリーで常にメンバー募集をしており、もちろん、チームとしてのレベルアップを図って、国内外の障がい者サッカー大会への出場を目指す



エスペランサNEXT  
神奈川県川崎市幸区南加瀬3-4-3 クアールト202  
TEL / 044-201-4552  
<http://parasc-esperanza.com/>



神奈川県川崎市で行われている、サッカーを中心としたスポーツを行う形での「放課後等デイサービス」活動。この活動も、その大元をたどれば、障がい者が行うサッカー競技のCPサッカーチームが最初だった。直前のページに続き、日本初の障がい者就労で運営するスポーツバーの運営元が行う様々な事業の1つ、この放課後等デイサービスの現場も取材した。スポーツを行うことで思いきり体を動かせる、障がいのある児童の喜びあふれる笑顔がそこにあった。

している。15歳以上を対象とした「エスペランサ」、また、中学生以上の男女を対象に、障がいのある無を問わずにサッカーを楽しむための「一般」のカテゴリーでもそれは同様だ。開催場所は、神奈川県川崎市・横浜市内のグラウンドまたは体育館となっている。もちろん、初心者・未経験者も大歓迎だとのことなので、関心のある方は、エスペランサに問い合わせをしてみるといいだろう。

また、「E's CAFE」の運営を行う一般社団法人のエスペランサでは、カフェのほかの事業の運営も行っている。

「私たちの法人は、『スポーツと遊び』、『飲食』、『仕事』の3つの事業をその柱としています。飲食についてはお話しした通りですが、『スポーツと

# 事業の3本柱の1つは 「放課後等デイサービス」 パラスポーツを通じた

エスペランサ  
**NEXT**  
放課後等デイサービス  
**エスペランサNEXT**  
(運営)一般社団法人パラSCエスペランサ  
神奈川県川崎市





遊び』では障がいのある子どもたちの放課後支援教室の『エスペランサNEXT』という活動を行っており、『仕事』ではさらにスポーツ事業、クリエイティブ事業、コミュニケーション事業、飲食事業の4つの事業部門で、障がいのあるスタッフが従事できるお仕事の依頼を承っています」(7〜10ページで既出の代表理事・神一世子さん)

その中でもここで改めて注目したいのが、エスペランサが得意とするスポーツを中心とした放課後等デイサービスを行っている「エスペランサNEXT」だ。ここを取材した。

このサービスを取り仕切る、児童発達支援管理責任者の鈴木伸幸さんは、活動の狙いについてこう話す。

「パラスポーツ(障がい者スポーツ)を通じて、体力の向上、コミュニケーション能力や協調性、チャレンジ精神などを養って、障がいのあるお子さんの将来的な自立をサポートすることがその目的です」(鈴木さん)

対象としているのはこんな子たちだと言っ

「障がいのあるお子さんには運動が苦手、勉強が苦手、コミュニケーションが苦手、集中力が続かないという方がやはり多いですし、チャレンジ精神はあるものの、なかなか具体的な活動の場として新しいことに取り組める場は限られてしまいます。我々としては、そんなお子さんたちに参加してもらって、スポーツを通じてサポートできる場を提供したいと考えています。もちろん、放課後クラブとしての居場所作りもあります」(同前)

放課後等デイサービスなので、他の放課後等デイサービスと同様、障がいのある子どもに放課後の居場所を提供し、そこで行われる活動を通じて「将来の自立に向けた支援を行う」という意味では同じだ。

それは料金においても同様で、決まりとなっており、月額利用料の上限に満たない場合はおおよそ1000円ほど。このNEXTでも利用料金は1000円で、火曜日、水曜日、金曜日の週3回が行われている。

放課後等デイサービスエスペランサNEXT  
児童発達支援管理責任者  
**鈴木 伸幸**  
Nobuyuki Suzuki

我々が訪れたのは神奈川県川崎市にある富士通スタ

### まだまだ多くはない 障がい児がスポーツする場

鈴木さんが現場を取り仕切り、複数のスタッフが子どもたちに様々な指導をする。ただサッカーをするだけではない。おそろく色々な工夫がなされた結果としての指導方法なのだろう。ボールを使わないゲームのような遊びを行ったりなどし、子どもたちが先を競ってコートを走り回る。顔の表情は生き生きとしてとても楽しそう。それを子どもを連れてきたお母さんらが安心した表情で見守っている。そしてもちろん、サッカーボールを使ったミニゲームなどが行わ

れ、45分後には、たくさん走り回った子どもが母親に手を引かれて帰っていった。

確かにこういう場所があれば、「運動が苦手」という子どもでも楽しく体を動かさせられるだろうし、ゲームを通じて人との繋がりが生まれてコミュニケーション・スキルも身につくだろう。そこでは集中力も、新しいことにチャレンジする精神も養われるはずだ。

編集部が一見すると、まったく滞りなく放課後等デイサービスが行われていたようだったが、それでもやはり運営上で難しいことがあるのではないかと、鈴木さんに尋ねてみた。  
「プログラムを考える上で、子どもごとに異なる



富士通スタジアムのアップフィールド。とても広く、子どもたちが走り回れる十分な広さ。思い切りサッカーが楽しめる。

ジウム、スタジアム脇の試合前の選手が準備運動などで利用する「アップフィールド」で開催されていた。スポーツ好きな子供にしてみれば、格好の場所と言えるだろう。

時間は16時30分からの45分間なので、この時間が迫ってくると、本サービスの利用者で、子どもを預けたいと考える保護者が運転する車が続々と集まってくる。定員は10名。しばらくすると、ほぼ定員通りの子どもたちが集まった。鈴木さんによれば「中高生の利用者もいますが、メインは小学生の利用者で発達障がいの子が多いです」という話だ。

るレベルの差というものがありませんから、そこはよく考えた上で組まないといけないということとがありますね」(鈴木さん)

利用者からはどんな声が寄せられているのだろう。それも聞いてみた。

「障がいを持つ子が体を思いきり動かせる場が少ないのでありがたい、という声はよく頂きます。事実、そういう場は本当に少ないですからね」(鈴木さん)

ちなみに利用に至るまでには、

1. 電話・メールでの問い合わせ
2. 利用申請・受給者証発行
3. 入会手続き
4. 利用開始

という手続きが必要だという。まずは、問い合わせを行った上でNEXTに子ども同伴で訪れ、子どもの様子や希望・要望などを聞く面談が行われる。そして希望に沿うようであれば、居住地域の市区町村に利用申請を行い、受給者証の発行を受けることも必要だ。そして入会手続き(契約)に際しては、身体障害者手帳または療養手帳(持っている場合のみ)、受給者証、印鑑を持参する、という流れになる。



# はじまり

△水越けいこ連載▽

11



## シンガーソングライター 水越 けいこ

1978年「幸せをありがとう」でデビュー。TBSの朝の情報番組「8時の空」に田中星児と共にレギュラー出演。その後、「ほほにキスして」「Too Far Away」がヒット。現在はダウン症を持つ息子・麗良と2人暮らしをしながら音楽活動と公演活動を続けている。

### 「障がい者」と「健常者」の意味を考えた「はじまり」

この連載も今回で11回目になりました。長く続いていることは嬉しい限りです。これまでの連載では、ダウン症を持つ息子・麗良（れいら）との生活を綴らせて頂きましたが、今回は、「障がい」と「健常」というワードに関して私が思う事を書いてみたいと思います。

現在では「障がい者」のように、「がい」を平仮名で表現することが多くなってきていますが、少し前までは「障害者」という表現が使われることが一般的でした。この漢字を平仮名にしただけの、ほんの少しの違いで、その印象は大きく変わったと思います。

もちろん私もですが、他のハンディキャップがある家族をお持ちの親御さんも、少し前まで

### 息子が私に教えてくれたのは「作品を創り続ける」こと

息子・麗良と二人暮らしを始めて二十数年が経過しました。改めて思い感じるのですが、息子と暮らすようになって、私自身、変わったなあと思う事が沢山あります。その変わった事の一つに、私の生業でもある「作品創り」があります。20代の頃、毎日のようにテレビに出演させて頂いたり、コンサートツアーで全国を訪れたり、忙しくも華やかな(?)時代もありました。その頃は「いつか子供を持つことになるだろうな」という意識はあまりありませんでした。目の前にあるやらなくてはならない仕事が増え、積りだつたことも理由の一つであったと思います。

この「害」という表現に、随分と違和感または憤りを感じていたと推察します。自分の身内が世間より「害」がつくカテゴリーに分類されてしまうという事は、とても悲しい事です。どなたが最初に平仮名への読み替えをしたのかは存じません。しかし、初めて「障がい者」という表記を見た時には、心が少し救われたような気がしました。

「障がい者」に対して、「健常者」という言葉がよく使われます。この言葉の区分は、ある専門的な機関において「用語」として用いる事は仕方がないと思うのですが、現状で使われている「健常者」という言葉の意味は、いったいどのような事なのだろうと、よく考えます。読者の皆様は「健常者」とはどんな方だと思いますか？ これは、あくまでも私のイメージですが、「健常者」であること、「健常で居続けること」

その仕事の中で一番エネルギーを使うのが、作品創りでした。特に、歌詞を考える時には、自分自身と対話するという作業が必要で、そのための時間を随分と多く費やしました。

若い頃の歌詞の題材は、圧倒的にラブソングが多かったものです。実際の体験をモチーフにする事もありましたが、私自身、当時そんな沢山の恋愛をしていた訳ではないので(笑)、想像で歌詞を創る事も多々ありました。時には、行ったことのない海外の町でのストーリーを想像してみたり、自分自身を全く違う性格の女性に置き換えてみたり。大変ではありましたが、楽しい作業でもありました。

そんな作品創りが大きく変わったのは、息子が産まれてから。また、離婚を経験してからです。いざ、息子との二人暮らしが始まると、生活はそれまで持っていたイメージ以上に変わって行きました。これからずっと、本当の意味で、息子を支えて行かなければならない訳ですし、シンガーソングライターを職業として、息子と私が暮らしていける為の糧を得ることができると、不安に苛まれることもありましたが、長い期間悩んだ末、私は他の安定した職業に就こうと、ある企業の面接を受け、採用の通知を頂いたのです。

しかし、その後、やはり「シンガーソングライター」の道を全うしよう」と思い直す出来事がありました。それは、先述の企業への就職が



水越けいこ「僕が気持ち」絶賛発売中!

というのは、理想ではありませんが、長い人生においては、なかなかそれを維持し続けることが出来ない事だと思っております。加齢によって身体の機能の一部が不全になったり、病気や事故によって、「健常」の状態から「障がい」のある状態になってしまう可能性は誰にでもあります。現在「障がい者」と「健常者」と区分される基準は、生まれた時の状態、もしくは何らかの原因で発生してしまった「状態」によって行われています。果たしてそれで良いのでしょうか。私が危惧するのは、その区分が本人の心理に刷り込まれてしまう事にあります。自分が「健常者である」または「障がい者である」という概念、それはその言葉が持つイメージによって、その人の人格の「自己暗示」に繋がってしまうのではないかと。文章にすると難しい部分もありますが、これが私の素直な意見です。

決まった日のことです。就職が決まったことがとても嬉しくて、家事をしながら部屋に流れる音楽に合わせて、歌ったり、踊ったりしていました。きっと息子は、楽しそうにしている母親を随分久しぶりに見たのでしょう。本当にキラキラとして嬉しそうに、これまでは見ることがない息子の表情を今でも忘れられません。その時に私は、息子の前では、どんな時でも明るくいようと決心しました。そして作品創りもラブソングだけではなく、人間への愛、自然への愛、そして息子への愛を表現しなければならぬと思えました。その大事な事に気が付かせてくれた息子には、感謝の気持ちで一杯です。

今の私が在るのは、本当に息子のお蔭だと思っています。麗良、ありがとう。愛しています。





### 書道一家に育った少女は 5歳にして書を書き始めた

鷺坂 翔子さんが書道を始められたのは何歳からですか。

翔子 5歳からです。

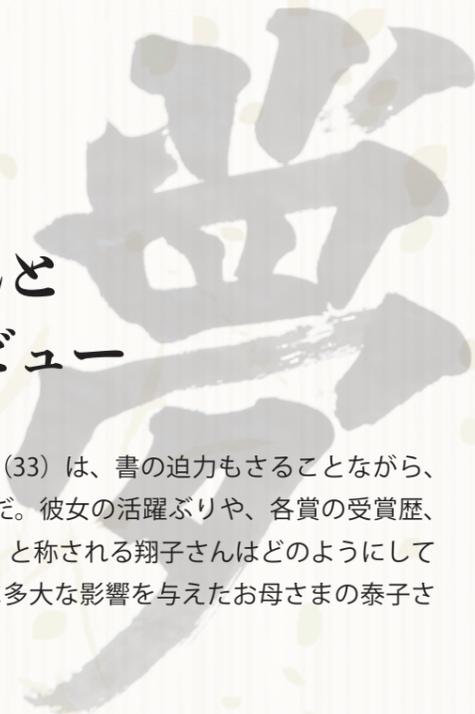
鷺坂 書を始めるときは何かはお母さまの影響だと聞いておりますが。

泰子 私はずっと習字と書道をやってきましたから、私が「書」を書く姿をそれとなく見ていたと思います。それまでは障がいがあることで本人も引きこもりがちだったんですが、翔子が5歳の時に「お友達を作らせないといけない」と私が思って、翔子を含めたお友達3人に書道を教え始めたんです。ですから、きちっと始めたのは5歳の時。でも、私と主人の両親も全員が書道をやっていた「書道一家」ですから、書道の中で育ったようなものです。

鷺坂 途中で「嫌だ」とか「やりたくない」と

## ダウン症の 天才書道家・金澤翔子さんと 母・泰子さんに特別インタビュー

両親が書家という家庭に育ったダウン症の書家・金澤翔子さん（33）は、書の迫力もさることながら、その存在が多くのメディアに度々取り上げられるなどの有名人だ。彼女の活躍ぶりや、各賞の受賞歴、業績などを列挙するとすれば、枚挙に暇がない。そんな、「天才」と称される翔子さんはどのようにして誕生したのか。翔子さん本人と、書家として母親として、彼女に多大な影響を与えたお母さまの泰子さん（72）のお2人に話を聞いた。



かは無かったんですか？

泰子 そういうことは無かったと思います。

翔子 うん。

泰子 翔子は「嫌」とかマイナスイメージを言わない子なんです。どんなことでも、いくら苦しいことでも、やることはきちんとやる子でした。

鷺坂 それでも、幼少期はかなり苦しい時期を過ごされたと聞いていますが。

泰子 今のよう障がいに対する理解がありませんでしたから。例えば小学校4年生の時に、それまで通っていた普通学級の学校から特別支援学校に転校するように告げられ、受け入れを拒否されるといこともありました。すると、学校に行けないですから、友達もいなくなっちゃって毎日辛いわけです。その辛い時間を埋めようと276文字ある「般若心経」を書かせたんです。ご存知だと思いますが、般若心経には10歳の子どもが知っているはずもない難しい漢字が並んでいるんですが、それが翔子の書の基本、ベースになったんだと思います。

鷺坂 そんな辛いことがあったんですね。

泰子 その後、薦められた特別支援学校に通いながら18歳で卒業して就職という段階に至るんですが、手違いがあつて就職できなかったんです。それでまた時間が出来てしまっじやないですか。翔子が14歳の時に、ずっと精神的な支えだった主人が心臓発作で突然亡くなってしまったこともあつて。



難しい話が多くなったので、そのほとんどは母親の泰子さんが対応してくれた。泰子さんの顔と話ぶりには娘・翔子さんへの大きな愛情が満ち溢れていた。



母 金澤泰子  
Yasuko Kanazawa

書家 金澤翔子  
Syouko Kanazawa

MELDIA GROUP 三栄建築設計  
一般財団法人メルディア 事務局  
鷺坂浩章  
Hiroaki Sagisaka



母 金澤泰子 Yasuko Kanazawa  
書家 金澤翔子 Syouko Kanazawa

**障がいのある子の母親として70歳を超えた今が一番幸せ**  
 鷺坂 そんな翔子さんですが、30歳から一人暮らしを始められたそうですが、「一人暮らしをしたい」と聞いて、お母さまとしてはどう思われましたか？  
 泰子 障がいのある子を産んだ母親は、その瞬間から自分が死んだ後に子どもがどうなるかが気がかりでならないんです。ところが、翔子が20歳の時に国連本部で行った世界中の人に向けたスピーチの中で、「30（歳）になったら一人暮らしをする」と宣言してしまっただけなんです。その時はまだ「先の話だ」と思っていたんですが、

ついに30歳になってしまい、一人暮らしを始めさせることにしました。私は「1週間くらいで戻ってくるだろう」と思っていたんです。自宅から歩いて7分くらいのところに住んでいるんですが、独立してから今まで一度も自宅に戻って来ません。一人でちゃんと身の回りのことを全部やっているようですし、翔子が住む地域の人たちに、まるで溶け込むかのように自然に接しているんですね。だから、今では逆に頼もしく思っています。ただ一つ、住居用のマンションを買ったとか借りるといったことがどこまで一人で出来るのか。それは不安ですが、  
 鷺坂 先ほどのお話にもありましたが、世の障がいのあるお子さんを持つ親御さんたちに何かメッセージをお願いします。  
 泰子 さつきも言ったように、社会の構造を取り払ってしまえば、頭が良いとか悪いとかいう価値観も取り払われるはずなんです。そうすれば、「うちの子は他の子より劣っているのではないか」だなんていう考えも無くなります。そもそも、子どもに優秀なんかありません。その子がこの世に生を受けたこと自体が奇跡なんですから。だから私は言っています。「子どもが今ここにいるだけで十分じゃないですか」って。社会の枠組みさえ取り外せば、その人その人の存在は肯定されるはずなんです。私のこうした世界観は、翔子が居てくれたおかげで築けたので、私にとっては今が一番幸せです。



鷺坂浩章 Hiroaki Sagisaka

鷺坂 福島県のいわき市に翔子さんの個人美術館がありましたが、福島とはどういった縁で繋がったのでしょうか？  
 泰子 福島の美術館（※1）は建坪1000坪のとても立派な美術館を建てて頂きました。きっかけは、東日本大震災後に、少しでも被災した人たちの慰めになればということで、被災地を巡っている中で、「希・望・光」という3連の書を書いたんです。それを見た、後に美術館のオーナーになる方が場所を提供してくれたんです。すごく立派な建物で、とてもありがたく思っています。  
 鷺坂 翔子さんの書は素人の私が見ても「迫力が違う書だなあ」と思うのですが、書道の専門家であるお母さまから見ても、最良目なしにはりすごい書なんですか？  
 泰子 私は今日までの約60年間、書道一筋に生きてきました。ですから、翔子より技術的には上だと思えます。でも、私の書に感動して涙を流した人はいませんが、翔子の書を見た多くの方が涙を流して感動してくるんです。「質」が違うんですね。私は書道の練習を重ねた結果の書家ですが、翔子の場合は根本的な何が違っ、社会の中で何かを教えられるということがなく、

結果、社会に影響されることなく、純粋な感性が伸びたんでしょう。上手に書を書いて誰かに褒められたとか、そういった世俗の欲に染まっておらず、無心だからだと思います。鷺坂 社会とは距離があったからこそ、社会の枠組みに嵌まることもなかった、と。  
 泰子 そうです。だから障がいのある子をお持ちの親御さんに言いたいのは、私が翔子を無理に社会に入れようとしなかったように、無理やり社会に入れようとしなくてもいいんじゃないか？ ということですね。無理に社会に入れようとするれば、学校の成績が悪ければ落第生であるかのように言われます。でも、それは今ある社会を前提にして考えてしまっているからであって、その社会の枠組みを取り外してみたらいいんです。世の中にある、争い事やなんかを考えても、そんなものは本当に人類が作った「幻想の社会」のようなものを前提に物事を考えているから起こってしまうことなんだと、つくづく思いますね。



金澤翔子美術館HPより



金澤翔子さんの書。力強く書かれた字からは迫力と緊張、感動を覚える。



金澤翔子美術館HPより

金澤翔子美術館  
 福島県いわき市遠野町根岸字横道71番地  
<http://kanazawa-shoko.jp/museum/index.php>



※1 / 福島県いわき市にある「金澤祥子美術館」



菊池 月香  
Ragika Kikuchi

社会福祉法人 同愛会 / 常務理事  
障がい者支援施設 光輝舎 / 施設長



熱心に会報を読む千尋さん。



実は同じ年の二人。過去を振り返りつつ時間を楽しみました。



取材&文 渡邊 希望 俳優・脚本家・演出家

1988年神奈川県生まれ。大学時代に現代小説を専攻。2015年に「劇団ショートホープ」を立ち上げる。俳優・脚本家だけでなく、演出家としても活躍し、音響も手掛けるなど、多岐に渡って才能を発揮する。ここ1年で3本の脚本&演出をこなし、その舞台はいずれも好評と人気を博している。

障がい者の「声」を聞く

# つむぐ

～こえをきく～

今回の対談は栃木県益子町にある「光輝舎」で行いました。現場に到着すると、施設の壁面に凛々しく掲げられた「光輝舎」の文字が目に入りました。花壇には多くの花が植えられており、数名の利用者とスタッフがその手入れをしていました。楽しい雰囲気を感じながら、私は挨拶に向かいました。

## 人を惹きつける言葉を放つ人 今の人生を大切にしている人

今回の対談相手の方とは、ご自身が入所しておられる施設「光輝舎」でお会いすることになりました。お会いしてまず、私は名前を伺いました。字を書くのは得意ではないと言いつつ、私のノートに「千尋」と書いてくれました。

その後、「めっちゃ恥ずかしい」といい、千尋さんは顔を下に向けました。私や、取材のスタッフを含め、複数人に見られていることが原因だったようでした。

続けて、千尋さんが「これ（対談）は何かに載るの？」と尋ねてきました。私は、もし嫌がられたらどうしようと思いつつも、その問いに「冊子に載るよ」と答えると、彼女は意気込みを込めるかのように、「ちゃんと答えなきゃ」と言ってくれました。

私が不安になっていた矢先のことだったので、彼女のこの言葉はとて有難かったです。また、後々に私は気付くのですが、これが彼女の「すごさ」でもありました。

千尋さんの趣味は買い物。音楽が好きで、CDをよく買うのだそうです。好きなアーティストは「宇多田ヒカル」や「B'z」だと言います。特に「B'z」に関しては、ほとんど全てのCDを持っているとのこと。

千尋さんはこの施設で複数のクラブ活動に参

加しているそうです。その一つは「園芸クラブ」で、好きな花はピンクのチューリップだとか。何より、ピンク色のものが好きだと言います。「友技（ゆうぎ）クラブ」というクラブにも参加しているとのこと。その活動内容は、皆でUNOやトランプをするのだそう。「友技」とは「遊戯」の当て字だったようです。今にして考えてみれば素敵なたとえだと思います。

音楽の趣味が私と似ていたので、彼女に年齢を聞いてみると、なんと同じ年でした。そうして、会話はたちまち世代の話へと移りました。

自分が学生だった頃に流行っていたゲームや音楽などの話をしていると、その合間に過去を振り返るためだったのか、何度かの沈黙が二人の間に訪れました。対談のうちの多くの時間が、昔の事を思い出す時間に充てられました。

その、時間が止まったかのような沈黙を崩したのは千尋さんの一言でした。千尋さんはゆっくりと、ほんの少し私の方へ向き直りながら、「歳を取ったね」と言ったのです。つい私は吹き出してしまいました。それから、「歳を取ったね」と言葉を重ねました。

こういった千尋さんの鋭い一言は、実は対談中の色々な場面で聞くことができました。その大半はなぜか本人の許可が下りず、ここには書けませんでしたが、先ほど述べた彼女の「すごさ」は彼女の言葉の中にありました。「等身大」とい

二人で昔話に耽っていると、人生についての話になりました。千尋さんは自身の今後の人生について、「今のまま行けばいい」と言いました。彼女が今までに経験してきたものは、もちろん私には知る由もありません。しかし、「今のまま行けばいい」と言えるようになるまでに、様々なことがあったのだろうということは、想像に難くありませんでした。

対談に同席して頂いた光輝舎の菊池さん（※1）の計らいで、数年前に発行したという会報を見せて頂きました。そこには、スタッフの方たちが施設利用者に向けて書いたメッセージが載っていました。千尋さんはそれを見つけると、食い入るように読み始めたのです。

少しの間、沈黙が続きました。千尋さんは無言でその会報を読んでおり、私たちは彼女が読み終わるのを待っていました。その場に流れた沈黙は、不思議な一体感となって、私たちを包んでいるかのようでした。

千尋さんが顔を上げました。彼女に最初に声をかけたのは菊池さん。目の前で読まれると恥ずかしいといった雰囲気です。「どうだった？」と問いかけると、千尋さんははっきりとした声で、「感動した」と迷わず答えました。

今まで流れていた一体感は、小さな感動に変わりました。千尋さんの一言には、「力」があるように感じました。「等身大」の彼女と、いつまでも話していたくなる。そんな力が。



※1 / 障がい者支援施設 光輝舎の施設長・菊池月香氏



所を「区分1」、半数以下で、逆に比較的程度の子どもが通う事業所を「区分2」としているが、基本報酬の引き下げにより、区分1では3〜4%、区分2では10〜12%もの減額になる——という試算だ。

今回の報酬見直しが行われた背景には、およそ福祉とは似つかわしくない、利益目当ての業者が続々とこの事業に乗り出した、という事情がある。放課後デイがスタートした12年の段階では全国で2887カ所だった施設が、その後、爆発的に急増、昨年4月の時点で約1万カ所と、一気に4倍近くにもなった。

また、以前も触れたことだが、費用の9割が公費で負担される、「損をしない補助金」というヒモ付き事業との触れ込みで、開業支援をする謳った怪しげな業者のホームページが続々と立ち上がり、あたかもマネーゲームの場に化していたという現実もある。

そんな、「入り口」部分を広くしてしまったがために、現実的にまともな福祉を行わない業者が参入したことで、中にはただ子どもにテレビ

## 4月に行われた制度改定で 業界関係者から囁かれる 放課後デイの危機!?

2012年からスタートした「放課後等デイサービス」。この制度により、事業者の参入が相次いだのはいいが、劣悪な業者の参入も招いてしまったという側面もあるようだ。制度開始から数年を経過した近年、問題のある事業所運営や、サービスの質の低下などが指摘されていた。そこで、悪質な業者の排除や、更なるサービスの向上を目的として、「事業報酬の見直し」が今年4月に行われた。しかし、制度整備のための「見直し」の目的とはかけ離れた改定によって、真つ当な事業者の存立に関わるとして、関係各所からたくさんの悲鳴が聞こえてきている。このままでは、障がいを抱える子どもの放課後の居場所さえも奪われかねない事態となっている。

編集部

を見せているだけ、という劣悪な運営も散見されるようになっていた。今回の見直しは、そういう業者を締め出すための改定なのだ。

ところが、改定によって真つ当な運営を行っていた業者でも、報酬引き下げに見舞われかねない事態となった。放課後デイを運営している業者などからなる、「障害のある子どもの放課後保障全国連絡会」（全国放課後連）では、今回の事業報酬改定の問題点を、概ね以下のようにまとめている。

「市町村が行う障がいの軽重を判定する基準が妥当性を欠く場合が多く、国の制度であるにもかかわらず、市町村の対応によって事業所の存廃が決まるというやり方自体に問題がある。『利潤を追求し、支援の質が低い事業所が増えている』（財政制度審議会資料）現実を変えるはずのものだったが、今回の改定では、利潤追求とは無関係な事業所まで抑制するという、適正な見直しとはなっていない」

そのことにより、職員の雇用面で不安が煽られ、安定して福祉を増進していける環境になっていないというのだ。事実、先出の全国放課後連が行った事業者向けアンケートでも、報酬改定後の影響として、「人件費の抑制が起こるだろう」という意見が約半数の49%も寄せられ、「事業所廃止の危機が起きるだろう」という見立ても19%に及び、いずれにせよ、事業者として様々な不安や危機感に駆られているのだ。

### 悪質業者排除のための改定 まともな業者にも悪影響が

「事業報酬の引き下げで、放課後等デイサービスが崩壊する」

以前に本誌でも取り上げた話題だが、この4月に改定された制度の運用が開始され、これまでのような今後の話としてではなく、崩壊するかもしれない現実が現実味を帯びた問題としてそれが進行しつつある。

もう一度、どついつた問題なのかをざっと見直してみよう。

そもそも、「放課後等デイサービス（放課後デイ）」がスタートしたのは12年のこと。簡単に言えば、障がいのある子どもたちにとっての学童保育のようなものとして役立ってきた。ところが、この事業において、所轄官庁が補助金の中身を変更するとし、実際、この4月に事業報酬の改定が行われた。見直し後の影響が様々注視される中、せつかく広がった放課後デイの動きが失速し、中には事業を営む業者の倒産・撤退が続出するのではと、悪影響が危惧され、関係者らは実際の変化に固唾を飲みながら見守っているという状況なのだ。

改定後の基本報酬の減額で、どついつた業者がどんな影響を受けるのか。厚労省では以下のように試算している。

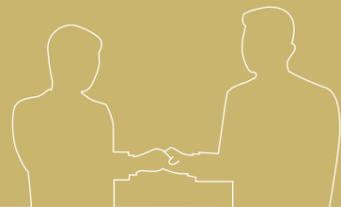
——障がいの重い子どもが半数以上いる事業

業界関係者からは一様にして同じ不安が語られている。「事業が廃止されれば子どもたちの居場所がなくなってしまう。そこで働く職員の雇用も失われる。廃止とまではいなくても、人件費を抑制しなければならず、結果、サービスの向上には繋がらず、むしろ劣化する。今回の改定は、むしろ真逆な対応なのだ」と。でもそもそも、子どもを育てる分野に、子どもの発達の価値を、金銭的な価値に置き換えるような仕組みは相応しくない」（全国放課後連）という根本的な発想が間違っているのだという意見まで出されている。

悪質な業者が入り込んでしまった現実を変えたい、という国の意向はもちろん正当なものだ。だが一方で、事業者の殺生与奪にかかわる事業報酬がコロコロと替えられたものでは堪ったものではない、という事業者側の切望も全くもって正当なものだ。次の改定には、なるべく関係者の多くの理解が得られ、かつ、本来の目的である子どもの育成に叶った制度に近づけることが望まれる。

編集部





弁護士が教える「障がい者と法律」

## シリーズ

# 障がい者の雇用問題 ②



表参道パートナーズ法律事務所  
弁護士／安部 晃平

1986年福岡県出身。2012年上智大学法科大学院修了。2013年弁護士登録。2016年より現職にて、中小・ベンチャー企業の労務管理、訴訟を中心に、各種企業法務を取り扱う。表参道パートナーズ法律事務所所属。

### 「障害者雇用促進法」 平成25年改正の概要

前号で触れた「障害者雇用促進法」は、平成25年に、次のような障がいのある方を守るための重要な改正がなされました。

#### 1 障がい者の範囲の明確化

「精神障害」には発達障害を含む等、どのような方が障害者雇用促進法の保護を受けることができる「障害者」に含まれるのか、明確に定められました。詳しくは、今回のお話の後半で書いていきます。

#### 2 精神障害者の雇用義務化

一定の規模を持つ企業には、障がいのある方

### 保護を受けられる「障害者」 障害者手帳は必要なのか？

「障害者手帳を持っていないのだから、差別禁止や合理的配慮の対象にはなりません」

果たして、このような企業の対応は適切といえるのでしょうか。どのような方が、障害者雇用促進法に規定されている差別禁止や合理的配慮といった保護を受けられるのかという問題です。

障害者雇用促進法2条1号によれば、「障害者」とは、「身体障害、知的障害、精神障害（発達障害を含む。第六号において同じ。）その他の心身の機能の障害（以下「障害」と総称する。）があるため、長期にわたり、職業生活に相当の制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難な者」とされています。

この規定から分かるように、障害者雇用促進法の保護を受けるために、障害者手帳を持っていることは要求されていません。

また、「身体障害、知的障害、精神障害」というのも例示に過ぎず、障がいの原因や障がいの種類についての限定はされていません。そのため、それ以外の障がいのある方でも、「心身の機能の障害があるため、長期にわたり、職業生活に相当の制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難な者」であれば、「障害者」として差別禁止や合理的配慮といった障害者雇用促進

を一定割合以上雇用しなければならないという雇用義務が定められています。この雇用義務の割合を法定雇用率といいますが、法定雇用率の算定基礎に、精神障がいのある方も含めるとされました。これにより、精神障がいのある方の雇用が促進されることが期待されます。

#### 3 差別的取扱いの禁止

前号で書いたように、採用時と採用後での不当な差別的取扱いの禁止が定められました。これにより、不当な差別的取扱いが違法である法的な根拠が明確になりました。

#### 4 合理的配慮の提供義務

差別的取扱いの禁止だけでなく、企業には、合理的な配慮を提供することが義務付けられました。例えば、車いすを利用する方に合わせて、

法の保護を受けることができるのです。

したがって、障害者手帳を持っていないことのみを理由として、差別禁止や合理的配慮の対象にならないと判断した前記の企業の対応は、不適切と言わざるを得ないでしょう。

それでは、障害者雇用促進法の保護を受けられるか否かの分水嶺となる、「心身の機能の障害があるため、長期にわたり、職業生活に相当の制限を受け、又は職業生活を営むことが著しく困難な者」か否かは、どのように確認するのでしょうか。

厚生労働省が公表している「障害者雇用促進法に基づく障害者差別紳士・合理的配慮に関するQ&A【第二版】」（以下「Q&A」といいます）の1・4・1には、障がい者かどうかの確認方法について、次のような方法が紹介されていますので参考にしてください。

①障害者手帳を所持している方については、障害者手帳により確認する。



机や作業台の高さを調整することなども「合理的配慮」に当たります。

#### 5 苦情処理・紛争解決援助

企業に対して、差別禁止や合理的配慮の提供義務に関する苦情を自主的に解決することが努力義務として定められました。また、これらの紛争について、紛争調停委員会による調停や都道府県労働局長による勧告等の規定が定められました。

これらの改正点の詳細については他の回に譲るとして、今回は①障がい者の範囲の明確化について詳しく見ていきたいと思います。



②障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく受給者証または難病の患者に対する医療等に関する法律に基づく医療受給者証を所持している方については、これらの受給者証の提示により確認する。

③前項の①・②以外の方で、統合失調症、躁うつ病、てんかん、発達障害、高次脳機能障害の方などについては、本人の了解を得た上で、障害名または疾患名を記載した医師の診断書または意見書により確認する。

もっとも、Q&Aで紹介されている方法だけでなく、全てのケースに対応できるわけではありません。実際に問題になりやすいのは精神障害のケースが多いと思いますが、判断が容易ではないこともまた多いでしょう。その場合は、「精神障害者保険福祉手帳障害等級判定基準」（平成7年9月22日健医発第1133号）を参考にしてください。意見を求める等の対応をすることになるでしょう。

このように、障害者雇用促進法の保護が受けられるか否かは、判断が困難なケースもあります。お一人で悩まずに、ぜひお近くの弁護士に相談してみてください。

表参道パートナーズ法律事務所  
東京都港区南青山4-17-33 グランカーサ南青山101  
TEL..031680413718



<http://omt-partners.jp/>

# 募集&告知

## 各種募集と告知

布施博または大矢真那が取材に向う「訪問先」を募集しています。また、当財団に対するご支援とご協力をお願いを掲載しています。

### 布施博&大矢真那の訪問先／取材先を募集しています



障がい者を雇用する企業や団体、障がい者施設、学校、場所、スポーツ会場などへ布施博または大矢真那が直接お伺いして取材させていただき、本誌にてご紹介いたします。

#### ■応募条件

障がい者を雇用している(雇用予定を含む)企業や団体、障がい者施設(学校を含む)、障がい者が活躍されているスポーツ団体、スポーツ大会、地域、場所など

#### ■お問い合わせ

下欄にある「一般財団法人メルディア」事務局まで電話またはメールなどにてご連絡ください

※取材に関して費用等は一切かかりません



## 募集や告知などの情報を無料で掲載しています

一般財団法人メルディアが発行する「月刊メルディア(本誌)」では、障がい者を雇用する企業や団体、各種の養護施設または学校などの募集ごとや告知などを無料で掲載しています。「障がい者を雇用したい」「障がい者施設で開催するイベントを告知したい」などがありましたら、下記の一般財団法人メルディア事務局までお問合せください。掲載に関しましては情報ページ用の「フォーマット」をご用意してあります。フォーマットに則して広告内容を準備していただく必要があります。掲載基準ならびに掲載フォーマットにつきましては事務局までお問い合わせください。

一般財団法人メルディアの活動方針ならびに本誌の編集方針にそぐわない内容、冊子の配置協力をお願いしている各企業の基準に抵触する内容、営利目的のみの内容、特定の宗教や信条に関わると判断される内容、反社会的と判断される内容、公序良俗に反する内容等については掲載をお断りする場合があります。あらかじめご了承ください。

## 一般財団法人メルディアへのご支援とご協力を募集

障がいのある子供を持つ親の苦勞や将来への不安は、他の人には計り知れないほど大きなものがあります。さらに、それが寡婦・寡夫家庭であった場合、経済的な負担、苦勞、不安なども一人で背負わねばならない状況に置かれることもあります。

私たち「一般財団法人メルディア」は、会報誌「月刊メルディア」を通じて、誌上に厳選した有益な情報を掲載することで、周囲との情報交換もままならず不安を抱える人たちの情報源として、その一助となることを目指しています。

私たち「一般財団法人メルディア」の活動に対するご支援(取材協力・協業の相談・各種支援・支援金・寄付)など、当財団の趣旨に賛同してご協力を頂ける企業・団体・個人を募集しています。下記にある当財団の事務局までご相談ください。

### お問い合わせとご相談はこちら 一般財団法人メルディア

〒163-0632 東京都新宿区西新宿 1-25-1 新宿センタービル 32F  
 一般財団法人メルディア 事務局／担当：後藤(ごとう)・鷺坂(さぎさか) 宛て  
 TEL: 03-5381-3213 / MAIL: org@gf-meldia.com



### ホームページと Facebook

一般財団法人メルディアのホームページでは当財団の取り組みやイベント情報、取材の裏話など、情報が盛りだくさん! Facebookページのご用意もあります。是非とも一度、ご覧ください。



MELDIA <https://meldia.org/>

facebook <https://www.facebook.com/gf.meldia/>



# イベント情報&店舗情報など

## 障がい者が働く企業や団体からの情報や告知

障がい者が働く施設や団体のイベント情報、その他の情報、各種の告知、一般財団法人メルディアからのお知らせなどを掲載しています。

## LUNCH CAFE & SPORTS DINING BAR「E's CAFE」



■場所  
 東京都多摩市落合1-47  
 ニューシティ多摩センタービル 8階  
 TEL:042-311-2022  
 ■営業時間  
 11:00~22:00 (L.O./21:30)  
 貸切・不定休有(お問合せください)  
 ■ホームページ  
<http://es-cafe.net/>

スポーツ観戦しながら美味しいお酒とお料理を楽しむことができるスポーツダイニングバー。ランチタイムには、ヘルシーで栄養バランスを考えたメニュー、カフェタイムには、健康ドリンクやスイーツなど、女性にもアスリートにも嬉しいメニューを揃えています。

### お店紹介



### Cafe

## 豊島区役所4階にあるおしゃれなカフェ「Café ふれあい」



■場所  
 東京都豊島区南池袋2-45-1 豊島区役所4階  
 TEL:03-3980-5020  
 ■営業時間 ※区役所閉庁日を除く  
 月~金9:00~17:00 (L.O./16:30)  
 土・日・祝11:00~17:00 (L.O./16:30)  
 ■ホームページ  
<http://housinkai.or.jp/guide/tabid/70/Default.aspx>

豊島区役所の4階のラウンジスペースで営業する「Café ふれあい」は、窓から池袋の素敵な街並みを眺めながら美味しい食事をいただける、おしゃれなカフェです。



## お便り募集!

あなたが知りたいことを  
 あなたに代わって編集部が調べます

読者の方々が障がいに関して「知りたいこと」、「疑問・質問」、「法的な情報」、「扶助情報」などをみなさんに代わって編集部が調べ、取材し、記事にしたいと思います。「こんなことを調べて欲しい」、「こんな情報があるが詳細が知りたい」など、どんなことでも構いません。左ページに記載の「一般財団法人メルディア事務局」まで、メールまたは郵便にてお送りください。

※お寄せいただくご要望の全部にお応えすることはできません。また、掲載する記事に関してはメルディア事務局ならびに編集部にて選択させていただきます。予めご了承ください。



一般財団法人  
**MELDIA**

■障がい者を雇用する(雇用予定を含む)企業、団体、各種の養護施設や福祉法人・団体の催事やイベントなどの情報掲載を希望される場合は、一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。■本誌の設置協力を頂いている企業や団体による設置前の「事前審査」により、掲載が不可能な場合もあります。掲載ガイドラインや記事のフォーマット等に関しましては一般財団法人メルディア事務局までお問い合わせください。



# 湘南ベルマーレ

## ホームゲーム観戦チケットプレゼント



©湘南ベルマーレ

療育手帳・精神障害者  
保健福祉手帳をお持ち  
の方と、介添者の方1  
名を湘南ベルマーレ  
ホームゲームに抽選で  
ご招待いたします！

### ■ホームゲーム一覧

開催日	キックオフ	対戦相手	申込〆切
10/20 (土)	16:00	北海道コンサドーレ札幌	10/6 (土)
11/2 (金)	19:00	清水エスパルス	10/19 (金)
11/24 (土)	14:00	浦和レッズ	11/10 (土)

### ■応募から観戦までのステップ

**STEP 1 応募**  
HPの応募フォームへ  
必要事項をご入力

応募フォーム  
はこちら

<https://meldia.org/privacy/ticket/>

ホームページからも応募できます  
財団 メルディア  検索

**STEP 2 メール**  
応募完了メールが  
届いたら受付完了

ドメイン指定をしている方  
は「org@gf-meldia.com」  
を指定メールアドレスに追  
加してください。応募後、  
5日経っても応募完了メ  
ールが届かない場合は恐れ入  
りますが下記お問い合わせ  
先までお電話くださいませ  
ようよろしくお願いいたします。

**STEP 3 抽選**  
当選者へチケットを  
お送りします

当選者の方へ当選メール  
を送信後、応募フォーム  
にご入力頂いたご住所宛  
にチケットをお送りいた  
します。  
当選発表はメールの送付  
をもってかえさせていただきます。

**STEP 4 観戦**  
スタジアムへGO！

チケットに記載のゲート  
よりご入場ください。  
どうぞ観戦をお楽しみ  
ください！



※当財団はチケットプレゼントのみ提供いたします。試合当日のご案内はいたしかねますので予めご了承ください。なお、会場  
内で生じたトラブル等に関しては一切の責任を負いません。あわせてご了承ください。

### ACCESS

Shonan BMW スタジアム平塚へのアクセス 詳細は湘南ベルマーレ HPをご覧ください

JR 東海道線平塚駅、小田急小  
田原線伊勢原駅よりシャトル  
バス、路線バス運行

圏央道寒川南 I.C. より湘南銀  
河大橋、国道 129 号線経由で  
約 15 分 (国道 129 号線に随時  
「総合公園」の看板あり)

駐車場は台数に限りがありますので予めご了承ください。

### ■お問い合わせ先■

一般財団法人メルディア 事務局 担当：後藤・鷺坂  
TEL 03-5381-3213 受付時間▶月曜日～金曜日 9:30～18:30

※抽選結果に関するお問合せにつきましてはお答えしかねますので  
ご了承くださいませ。

# 11 MELDIA CONTENTS 2018 NOV.

- 01 | 布施博が訊く／特別編  
ハートランドみのり／劇団「てあとるみのり」
- 06 | 一般財団法人メルディアとは？  
メルディアの基本理念、財団概要、支援事業
- 07 | スポーツと障がい  
スポーツと障がいを高次融合した E's CAFE
- 11 | 放課後デイの新しい形  
障がい児にスポーツの場を提供するエスペランサ NEXT
- 15 | 水越けいこ連載「M size / はじまり」  
水越けいこが愛息・レイくんとの日々を綴る
- 17 | 天才書家の誕生と母娘の物語  
障がいのある天才書家・金澤祥子
- 21 | つむぐ～こえをきく～  
脚本家・渡邊希望が障がい者の「声」を聞く
- 23 | The 取材！  
「事業報酬の見直し」で放課後デイが危機に？
- 25 | 弁護士が教える「障がい者と法律」  
表参道パートナーズ法律事務所／弁護士・安部晃平
- 27 | イベント情報と店舗情報・その他  
障がい者が働く施設や団体の情報・店舗情報など
- 28 | 募集と告知  
取材先募集と協賛の募集など

MELDIA11月号 2018年9月25日発行

発行元 / 一般財団法人メルディア事務局  
 発行人 / 小池信三  
 事務局 / 榎本喜明、後藤正善、鷺坂浩章  
 編集 / 株式会社サン・オフィス  
 編集人 / 東宮恵美  
 編集長 / 山口慎市  
 進行 / 東宮恵美、山口慎市、谷田貝介(新村印刷)  
 編集部 / 東宮恵美、都筑亮太、村田保則、渡邊希望  
 ライター / 水越けいこ、布施博、山口慎市、渡邊希望、  
 横関寿寛、大橋はるか、安部晃平

カメラマン / 吉岡晋(PMJ)、渡邊希望  
 ヘアメイク / 鳥取まりこ  
 デザイン / 有限会社フレッシュ・アド  
 印刷製本 / QREAS株式会社  
 協力 / MELDIA GROUP 株式会社三栄建築設計、  
 社会福祉法人 豊心会、ハートランドみのり、てあとるみのり、  
 一般社団法人パラSCエスペランサ、E's CAFE、エスペランサNEXT、  
 金澤祥子、金澤泰子、社会福祉法人 同愛会、障がい者支援施設 光輝舎、  
 菊池月香、表参道パートナーズ法律事務所、有限会社瀬谷新聞店、  
 株式会社TDPミュージックパブリッシャーズ、  
 PHOTO MIO JAPAN、新村印刷株式会社

※敬称略/順不同

本誌の無断転載・複製を禁じます

2018©All Rights Reserved. 一般財団法人メルディア & 月刊メルディア  
MELDIA GROUP 三栄建築設計/サン・オフィス



次号予告

MELDIA VOL.12

2018年10月25日  
発行予定

一般財団法人メルディア

〒163-0632  
東京都新宿区西新宿 1-25-1  
新宿センタービル 32F  
一般財団法人メルディア 事務局  
TEL: 03-5381-3213  
MAIL: org@gf-meldia.com